科目ナンバリング	G-LAS14 80015 PJ47						
授業科目名<英訳>	学校インターンシップ School Internship			担当者所属職名・氏名	教育学研究科 教授　石井　英真 教育学研究科 准教授　奥村　好美 教育学研究科 教授　開沼　太郎		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	キャリア形成系		使用言語	日本語	
旧群		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	実習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・ 通年集中	曜時限	集中 シラバスを参照すること	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（教育学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

本科目（学校インターンシップ）で実施する実習は，大学での教職科目及び専門科目等で身に付けた教育に対する知見に基づき，大学院での学修を活かして実際の教育現場で学ぶ意義ある機会である。授業実践のみならず生徒への影響の重大さを認識し，教育実習に対する基本的な心構えや技能を磨き，実習後の反省と総括から，今後に向けての展望がもてるようにする。

[到達目標]

(事前指導)
本科目（学校インターンシップ）で実施する実習に当たって，実習生として必要な資質および高等学校における教育実習や授業実践について理解し，目標をもつことができる。
・事前に実習校で実習への具体的な指導・助言を受け、準備に万全を期すること。
・各自が自らの課題を自覚し、その解決に努めること。
・実習校の探究的な学習についてその教育方針や伝統等を確認しておくこと。
（教育実習）
高等学校の探究的な学習に関する30時間の実習で、観察・参加・実習を通して、教育の実際を体験的に理解する。理解が求められる具体的な内容は次のとおりである。
a. 高等学校の役割や機能についての理解ができる。
b. 高等学校に就学している生徒の実際についての理解ができる。
c.（主として）参加・実習を通し、高等学校の探究的な学習の実際について理解し、自身の専門性を活かした関わり方ができる。
(総括)
探究的な学習に関する自分の教育実践について省察し，自らの優れた点と問題点・課題等を把握し，職業としての教職に向けての今後の展望をもつことができる。

[授業計画と内容]

授業計画
第１回　事前指導とオリエンテーション：実習にあたっての心構え、教育実習の内容と方法、実習校との事前協議、学校インターンシップ実習日誌の使い方
第２回　教育実習（学校インターンシップ）：授業参観（生徒の実態を把握し、探究的な学習に関する指導の考え方について学ぶ）
第３回　教育実習（学校インターンシップ）：授業実践（探究的な学習を進める上で必要な知識・スキルの指導のあり方を学ぶ）
第４回　教育実習（学校インターンシップ）：授業実践（探究的な学習における課題設定指導のあり方を学ぶ）
第５回　教育実習（学校インターンシップ）：授業実践（探究的な学習における計画立案指導のあり方を学ぶ）
第６回　教育実習（学校インターンシップ）：授業実践（探究的な学習における調査の指導のあり

学校インターンシップ(2)へ続く↓↓↓

学校インターンシップ(2)

方を学ぶ）
第７回　教育実習（学校インターンシップ）：授業実践（探究的な学習における調査結果分析の指導のあり方を学ぶ）
第８回　教育実習（学校インターンシップ）：授業実践（探究的な学習における成果報告の指導のあり方を学ぶ）
第９回　教育実習（学校インターンシップ）：授業実践（探究的な学習における成果発表・質疑の指導のあり方を学ぶ）
第１０回　教育実習（学校インターンシップ）：授業実践（探究的な学習におけるまとめと振り返りの指導のあり方を学ぶ）
第１１回　総括（成果と課題をまとめる）
＊ただし、授業回数は目安であり、学校での実習30時間を必須とする。

[履修要件]

本科目の受講を希望する者は、必ず4月9日（木）までにメールで奥村好美准教授に連絡すること（メールアドレスは教育学研究科の教務窓口にて確認する事）。

[成績評価の方法・観点]

実習校からの評価、実習日誌を総合評価する。

[教科書]

高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説

[参考書等]

（参考書）
オリエンテーションにおいて，教育実習（学校インターンシップ）に関する資料を配付する。

[授業外学修（予習・復習）等]

実習先への挨拶や打ち合わせ等に要する時間は、実習30時間には入らないことを考慮しておくこと。

また、実習経験から十分な学びを得ることができるよう、探究的な学習に関して十分事前学習を行なっておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]